# 第６回佐久市浅間地区小・中学校あり方検討委員会会議概要

| | |
|---|---|
| **日　時** | 令和７（2025）年７月１４日（月）午後 6 時 30 分～8 時 40 分 |
| **場　所** | 佐久市市民創錬センター　大会議室 |
| **委員出席（敬称略）** | 小嶋秀文、酒井仁一、小林彰一、依田哲太、山口元気、北山浩一、亀谷佳奈、星野克幸、井出健太、小山泰明、山口亮、石川政好、白鳥貴文、村上晃司、山岸ともみ、宮島卓朗、宮森伊智朗、大池明、金澤英人、井出忠臣<br>（出席 20 名） |
| **事務局** | 神津教育長、平林学校教育部長、藤巻学校教育課長、小林主幹指導主事、油井総務係長、井出学務係長、総務係小林、総務係岩﨑、草間教育施設課長、木内教育施設建築係長 |

## 会議事項

（会議に先立ち委嘱書の交付）
1　開会
2　教育長あいさつ
3　会長あいさつ
4　自己紹介
5　佐久市浅間地区小・中学校あり方検討委員会について
6　副会長の選出　→小嶋秀文委員を副会長に選出
7　中間報告について
8　会議事項
（１）前回会議の振り返りについて
（２）パブリックコメントの結果について
（３）部会の設置について
（４）今後の進め方について
（５）その他
9　閉会

## 委員からの主な意見（要旨）（「⇒」：事務局からの回答）

**＜（１）前回会議の振り返りについて＞**

・佐久平浅間小学校の場合、通学区の変更は対策の方法の１つであり、その実施は今から決まっているわけではない、ということか。

⇒佐久平浅間小学校における対策の検討経過については、中間報告の 7 ページから 8 ページを確認いただきたい。佐久平浅間小学校の将来の方向性については、中間報告 9 ページのとおり、今後の児童数の推移により、原則、通常学級数が 30 学級以上となる状態が 3 年以上継続することが見込まれた場合、その初年度までに通学区の一部を見直し、岩村田小学校に編入することとしている。ただ、現在の推計では、パターン 2 の常田赤岩線が最も開発が進んだ場合でも、30 学

級以上が 3 年以上続く状況となるのは 2036 年となっている。対策を行う必要がある間際になってから通学区を分ける議論を行うのはとても刺激が強くなることから、事務局としては、今のうちに通学区を見直すことについて冷静な議論をした上で、約束ごととして通学区を見直す区域を決めておきたいと考えている。

・資料 2-1 の３．推計結果と評価に、推計上、浅間中学校は、今後学校現場や児童生徒の学びに大きな影響を与えかねないような状況に陥ることが見えてきた、とあるが、浅間中学校は現在すでにそうなっている。佐久平浅間小学校について通学区の一部の見直しをしても、結局は浅間中学校へ進学するので、非常に厳しい状況にある。浅間中学校の方向性は、今はまだ判断する時期ではないと整理されているが、浅間中学校は今既に困難な状況にあるということをお伝えしたい。

⇒浅間中学校が非常に厳しい状況にあることは十分理解しており、直近の課題について、どのように今の状態を和らげられるか、先般、校長先生方にお集まりいただいて話し合いを行ったところである。また、浅間中学校においては、2030 年に生徒数のピークが来ることを見据えて、今、教室の増築の対応を行っており、令和 8 年度の供用開始に向けて取り組んでいる。委員ご指摘のとおり、今後を見通す中では、その後再び生徒数のピークが訪れ、非常に厳しい状況を迎えることが想定されるが、現在の推計では、浅間中学校の生徒数が次のピークを迎えるのは 2039 年とされる中で、現時点で大きな決断をすることは難しいため、常田赤岩線沿線の開発状況が見えてきた時点で、もう 1 回精緻な人口推計を行った上で判断を行いたいと考えている。

**＜（２）パブリックコメントの結果について＞**

・23 名から 75 件の意見提出があったとのことだが、これはどのような状況か。また、提出された意見についての所感をお伺いしたい。

⇒23 名から 75 件の意見提出があったことについては、一人の方が複数の意見を述べられるケースが多かったことから、件数が増えている。今回のパブリックコメントについては、多くの方に関心をお持ちいただき、お一人お一人が感じたご意見を率直に出していただいた結果として、多くの件数が出てきたものと捉えている。

・パブリックコメント 4 番の意見の回答について、長野県において学級編成基準を見直す予定があるとは承知していない、とあるが、山梨県が 25 人学級を進めていることを考えると、もしかすると長野県もその方向で進むかもしれない。せっかく人口推計の詳細なデータがあるので、新たなパターンとして、30 人規模学級になった場合にどうなるのかということ検討してはどうか。

⇒検討委員会の議論の中で、そういったパターンをお示しする機会もあると考える。検討させていただきたい。

・頂いたコメントは、行政の内部で誰が見ているのか知りたい。市全体の問題として、教育委員会だけでは対応できないことが起きているのではないか。

⇒今回のパブリックコメントについては、市長まで確認をした上でお示ししている。委員ご指摘のとおり、特に「市のまちづくり・移住政策について」に集約した意見については、教育委員会だ

けでは対応できない部分もあるため、そのような部分については関係課とも共有する。

・浅間中学校については、非常に苦しい状態にあるという話がある中で、小手先の対応ではなく、今から抜本的な対策の実施について話をする必要があると思う。先に話のあった、学級規模のこと等も考慮して検討を進めていただきたい。

⇒今後の検討委員会の進め方についての意見として承る。なお、現在の学校の苦しい状況に対しては、パブリックコメント 13 ページの、28 番から 31 番までの意見への回答として示した不登校対策に例示されるように、多様で柔軟な支援のアプローチを取っていきたいと考えている。

・浅間地区の学校のあり方を考える際、児童生徒の増加していく状況の中でも、佐久市教育振興基本計画に基づく教育が実践される環境が維持されるのか、ということを検討委員会の一つの論点にすべきだと考える。今行われている探究的な学びや、特別支援学級への細やかな対応、不登校への対応が、人数が増えてもできるのか。浅間地区には、市内の子どもの 40%が集中しているので、浅間地区の教育を良いものとする方法を皆で考えていかないといけない。

⇒パブリックコメント 18 ページの、57 番から 60 番までの意見への回答にあるとおり、これから、市の教育振興基本計画の根幹となる基本理念及び目指す子ども像についても別途改めて議論する必要があると考えている。その際には、市民の皆様や子どもたちからご意見を伺う機会を設けることを考えており、その議論の内容については検討委員会でも共有したいと考えている。

・パブリックコメントに対し教育委員会として回答をし、方向性を示しているが、今後、検討委員会として検討を進めるに当たり、頂いた意見を選択肢の一つとして議論を進めてよいか確認したい。また、今後の検討委員会の進め方においては、今すぐに解決したい問題と、中長期的な課題を分けて議論を進めていければ良いと思う。

⇒パブリックコメントの回答は、その多くが、中間報告をまとめるまでの検討委員会でなされてきた議論や、事務局の回答と整合を取って作成したものであるので、ある程度は尊重した上で今後の議論を進めていただければありがたいと考える。一方で、あくまでこれは最終的な報告ではないので、頂いたご意見については尊重しなければならない。特に、パブリックコメントの 16、17 ページにある、地域への説明が不足していた、また、パブリックコメントの募集が分かりづらかったというご意見については、受け止めて反省をしなければいけないと考える。また、短期的な課題と中長期的な課題について、短期的、直近に迫った課題については、この検討委員会の議論とは別途、校長先生方との話し合いの席を設けて議論をしており、検討委員会とは切り離して対応したい。

・パブリックコメントの 15 ページ、43 番の意見に、「通学区の見直しでは解決できない中学校についての検討が足りない」とあり、これに対し、「常田赤岩線沿線開発の影響が見通せない現状において、例えば抜本的な対策とも言える新校を建設するというような大きな決断をすることは時期尚早」であると回答がされているが、それは結局、事務局がどう考えているかということで、回答になっていないと感じる。折角たくさんの意見が出ても、それに対して、「事務局の考

えだからご理解ください」では伝わっていないと思う。もう少し意見に寄り添ってほしい。
⇒浅間中学校の方向性については、前回会議の振り返りの際の委員質問への回答としてお示しした通りであり、これまでの５回の検討委員会の議論の中でまとめきた内容であるのでご理解をいただきたい。周知や広報の関係については、説明不足であることは否めないと捉えているので、対応を工夫させていただきたい。

・佐久平浅間小学校の通学区の見直しについては結論が出ているのに、浅間中学校については色々な選択肢があると言うのは、言い訳のように聞こえる。判断を保留するのではなく、本当は今から検討を進めていかなければいけないのではないかと思う。
⇒浅間中学校の方向性については、まさに今年度、次回以降の検討委員会の中で、どんな対策をとれるのか議論をしてもらいたい。判断を一旦は保留とするものの、委員ご指摘のとおり、先を見据えた議論は大切であると考えている。

**＜（３）部会の設置について＞**
（質問・意見等なし）

**＜（４）今後の進め方について＞**
・今後の議論を進める上では、言葉の定義を決めて、それから目標を数値的に明確に示した上で話を進めた方が、会議が有意義なものになると思う。私たちが議論をしている間にも、子どもたちは現状の環境の中で育っていってしまう。子どもたちにお金をかけることは、何十年後かに返ってくる投資だと考えて議論を進めてもらいたい。

**＜（５）その他について＞**
・全体を通して説明が長かったので、端的でわかりやすい説明をお願いしたい。また、人口のシミュレーションについて、佐久平浅間小学校建設時のシミュレーションが上手くいかなかった反省を活かして計画を立てる必要がある。